

令和８年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 地域に密着した公立校ならではの特色を生かし、「知」「徳」「体」と「藤高（ふじたか）」生のプライドを持ち行動する生徒を育成する。
- 1 確かな学力の育成と、生徒一人ひとりの希望を叶える進路を実現する。
 - 2 学校行事や部活動等を通して、生徒の主体性、創造性を育成するとともに公共心を養う。
 - 3 「地域連携」を核に、地域に根ざした「地域とともにある学校」を進めるとともに、支援学校、地域の小中学校、海外の学校や外部機関との連携を進める。
 - 4 生徒が安全・安心な環境の中で学校生活を送り、生徒・教職員の健康管理体制を充実させる。

2 中期的目標

- 1 確かな学力の育成と希望をかなえる進路の実現。
(1) 希望の進路の実現に向け教員の指導力を向上するとともに、生徒が主体的に授業に取り組む教育活動を推進する。
ア 教科横断の授業研究を進めるとともに観点別学習の視点からの授業改善を行い、生徒の学力の向上を図る。
イ 授業における ICT の効果的な活用を進め、「個別最適な学び」と「協働的な学び」により深い学びにつなげる。
※ 生徒向け学校教育自己診断における授業満足度（R5：88.0%、R6：89.0%、R7：85.9%）を令和10年度までに90%以上にする。
(2) 3年間を通じて進路指導計画・課外講習の充実を図り、希望の進路を実現させる。
ア 1年次から進路に合わせた授業や進学講習を実施し、早期の目標設定につなげる工夫をする。
イ 進路決定まで、学年進行に合わせて多様な希望に応える個別の指導を幅広く展開する。
ウ 大学等との連携や早期からの講習、自習室活用の拡充、粘り強い指導により難関大学への進学実績を向上させる。
※ 国公立・難関私立大学の合格者数（R5：22人、R6：23人、R7：42人）を令和10年度までに47人以上、それに準じる私立大学合格者数（R5：84人、R6：91人、R7：130人）を令和10年度までに140人以上にする。
- 2 学校行事や部活動を通して生徒の主体性、創造性を育成するとともに公共心を養う。
(1) 「学校行事」、「生徒会活動」、「部活動」を通して生徒が主体的に取り組む態度、自ら企画・運営する力を育む。
ア 行事において生徒会部を中心に組織の企画・運営の力を育むとともに、リーダーとなる生徒を養成し、生徒の「企画する力」、「協働する態度」、「責任感」を育む。
イ 「部活動」の活性化によって学校生活をより充実したものにし、その活動を通して公共心を育む。
※ 生徒向け学校教育自己診断における「学校行事」満足度（R5：95.5%、R6：96.8%、R7：96.1%）を令和10年度までに98%以上、「部活動」満足度（R5：88.6%、R6：94.2%、R7：94.0%）を令和10年度までに95%以上にする。
- 3 「地域連携」を核に、地域に根ざした「地域とともにある学校」を進めるとともに、支援学校、地域の小中学校、海外の学校や外部機関との連携を推進する。
(1) 支援学校との交流を促進し、インクルーシブ教育について理解を深めるとともに「人権教育」につなげていく。
ア 藤井寺支援学校との交流活動を充実させ、生徒及び教職員がインクルーシブ教育について理解し活動に生かす。
(2) 「地域連携」を核に生徒が主体的に取り組む交流活動を拡充することによって、「地域とともにある、進学したい学校 No.1」をより確かなものとする。
ア 地域活動（クリーンアップキャンペーン・地域の催しへの参加、地元小中学校や他の教育機関との連携活動）の拡充を図り、地域と密着した、「チーム藤高（ふじたか）」を発展させる。
イ PTA、同窓会の協力のもと海外研修の継続・充実を図り、藤井寺市海外交流委員会と連携した短期留学生の受け入れ交流も充実させる。
※ 生徒向け学校教育自己診断における「特色ある取り組み」に関する肯定度（R5：87.3%、R6：89.4%、R7：85.2%）を令和10年度までに90%以上、「交流活動」に関する肯定度（R5：91.0%、R6：93.2%、R7：91.6%）を令和10年度までに95%以上にする。
(3) 「藤高（ふじたか）」の良さを知り、実感できる広報活動を展開する。
ア 学校ホームページ、藤高メルマガのさらなる充実を図り、情報発信を強化する。
※ 保護者向け学校教育自己診断における「教育情報伝達」に関する満足度（R5：87.1%、R6：89.4%、R7：86.8%）を令和10年度までに90.5%以上、「HP・メール発信」に関する満足度（R5：85.8%、R6：84.8%、R7：88.1%）を令和10年度までに90%以上にする。
イ 「体験入学」、「学校説明会」について生徒が主体となった運営を継続し、「藤高（ふじたか）」の良さをわかりやすく伝えていく。
- 4 生徒が安全・安心な環境の中で学校生活を送るとともに、生徒・教職員の健康管理を推進する体制の充実。
(1) 生徒の規範意識の向上と保護者や関係機関との連携による教育相談体制の充実を図る。
ア 「互いに違いを認め合い、ともに学びともに生きる」ことを育むために一人ひとりの生徒支援の充実を図る。
※ 生徒向け学校教育自己診断における「教育相談体制」に関する満足度（R5：75.5%、R6：78.2%、R7：73.4%）を令和10年度までに80%以上、保護者向け学校教育自己診断における「教育相談体制」に関する満足度（R5：77.7%、R6：84.0%、R7：77.8%）を令和10年度までに85%以上にする。
イ 多数の生徒が利用している自転車のマナー向上と交通安全指導の徹底を図る。
(2) 「入学してよかったと言える学校」を将来に渡って継続していくために、本校の将来展望を検討する。
ア 「藤高 MTG」「運営委員会」「総合学習推進委員会」を中心に将来に向けた特色ある取組みを具体的に検討していく。
イ 情報のデジタル化にともなう個人情報漏洩の危険性に対して、情報保護のための具体的な取り組みを検討する。
※ 生徒向け学校教育自己診断における「学校に行くのは楽しい」の肯定度（R5：84.6%、R6：85.2%、R7：87.2%）を令和10年度までに90%以上、「学校において個人情報を守られている」の肯定度（R5：92.1%、R6：95.1%、R7：94.6%）を令和10年度までに96.5%以上にする。
(3) 大規模災害の発生に対応できる防災体制の強化と防災教育の充実を図る。
ア 大規模災害の発生に対応できる防災体制を強化する。
(4) 大阪府立学校の 教育 職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づき働き方改革を推進する
ア 「全校一斉退庁日」、「ノークラブデー」を完全実施するとともに、年間を通して生徒・教職員の負担軽減を図る。
イ 年間の時間外在校等時間が720時間を超える教育職員をゼロにする。（R5：4名、R6：4名、R7：2名）。

	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成と、希望を叶える進路の実現	(1) 進路希望の実現に向けた教員の指導力の向上と生徒が主体的に授業に取り組むための工夫 ア 「主体的に学ぶ力」の向上に向けた観点別評価視点からの授業改善促進	(1) ア 「主体的に学ぶ力」の育成および事前学習となる「予習・復習」のために、学習支援クラウドサービスとグループウェア活用の拡大と充実を図るとともに、観点別学習評価の視点から授業改善に取り組み、教務部・ICT推進委員会による効果検証を実施する。また、授業アンケート結果を活用することによって生徒理解を促進し、生徒が質問をしやすくなる雰囲気を作り出すなど、更なる授業改善をすすめる。	(1) ア ・生徒向け学校教育自己診断における授業満足度[85.9%]を88.0%以上にする。 ・授業アンケートの肯定的評価（2回の平均）[90.0%]を91.0%以上にする。 ・教員向け学校教育自己診断における「授業改善」[97.4%]を99.0%にする。	
	イ ICT活用による効果的教科指導の構築	イ プロジェクタやPC・タブレットを効果的に活用した授業を展開することで、学力向上につなげる。	イ 生徒向け学校教育自己診断における「教材やコンピュータ、プロジェクタなどで工夫された授業がある」[90.1%]において92.0%以上にする。	
	(2) 3年間を見通した進路指導計画・課外講習の充実 ア 1年次からの少人数授業・進学講習の充実	(2) ア 「総合的な探究の時間」等を通した1年次からの進路意識の定着とICT機器の活用、少人数授業や進学講習、大学との連携による進学に向けた講習の充実を図ることで、学習意欲を向上させる。	(2) ア 生徒向け学校教育自己診断における「少人数の授業や、関心のある選択授業がある」[84.8%]を86.8%以上にする。	
	イ 多様な進路への対応	イ 多様な進路に対応するため、情報収集、伝達を充実し、幅広い個別の指導を展開する。	イ 生徒向け学校教育自己診断における「進路や職業について適切な指導を受けられる」[93.3%]において94.0%以上にする。	
	ウ 大学との連携、自習室活用の拡充、粘り強い進路指導による進学実績向上	ウ 日々の補習と集中講習「夢へのトライアル」、自習室の活用を促進し、高い目標を設定した粘り強い進路指導をする。	ウ 早期からの講習や自習室の活用、オンライン課題提供を促進することで、国公立・難関私立大学の合格者数[42人]を47人以上、それに準じる有名私立大学合格者数[130人]を135人以上にする。	

府立藤井寺高等学校

養う 2 学校行事や部活動を通して生徒の主体性、創造性を育成するとともに公共心を	(1) 「学校行事」、「生徒会活動」、「部活動」通して、生徒が主体的に取り組む態度、自ら企画・運営する力を育成 ア 行事において生徒会部を中心に組織の企画・運営の力を育むとともに、リーダーとなる生徒を養成し、生徒の「企画する力」、「協働する態度」、「責任感」を育む イ 「部活動」の活性化と、公共心の育成	(1) ア 行事において、生徒会部と3年学年団の連携によって生徒のリーダー集団を育成するとともに、そのリーダー集団が企画から1、2年を巻き込んで組織運営できるよう指導し、生徒会としての活動をアピールしながら企画・運営に取り組みせ、協力体制や責任感の大切さを理解させる。 イ 生徒会、学年団中心に、新入生に向けた入部の促進を図り、加入率の向上を図るとともに、各活動を通して、ルールやマナーを順守する態度を育成していく。	(1) ア ・生徒向け学校教育自己診断における「フェス体・フェス文等の行事は楽しい」[96.1%]を97%以上にする。 ・生徒向け学校教育自己診断における「生徒会活動は活発である」[84.4%]を86.0%以上にする。 イ ・新入生の部活動加入率[77.5%]を78.0%以上にする ・生徒向け学校教育自己診断における「学校は部活動が盛んである」[94.0%]を94.5%以上にする。	
	との連携を推進する 3 「地域連携」を核に、地域に根ざした「地域とともにある学校」を進めるとともに、支援学校、地域の小中学校、海外の学校や外部機関 (1) 支援学校との連携を通じたインクルーシブ教育の理解と実践 ア 藤井寺支援学校との交流活動の拡充、インクルーシブ教育の理解と実践 (2) 「地域連携」を核にした生徒の主体的交流活動の充実による「地域とともにある進学したい学校No. 1」の確立 ア 地域活動の拡充、地域と密着した「地域とともにある学校」の継続 イ 海外研修の継続・充実 (3) 「藤高(ふじたか)」の良さを知り、実感できる広報活動の充実	(1) ア 藤井寺支援学校との年間を通じた交流活動を充実させるとともに、オンライン授業による同時双方向の授業の実施を充実することなどにより、インクルーシブ教育について理解を深め、実践に生かすことによって年間を通じた「人権教育」につなげる。活動の内容についての広報にも努める。 (2) ア 地域活動(校外清掃・地域の催しへの参加、地元小・中学校との連携活動)の拡充を図り、藤井寺市立北小学校への「放課後学習支援」と「授業研究」の連携を通じて、児童・生徒、教員間の交流を促進する。 イ オーストラリアへの海外研修の継続とオンラインによる交流システムの内容を充実させることによって、現地高校から日本への短期留学や本校での学校交流、ホームステイ受け入れなどのサポートに取り組む。 (3)	(1) ア ・生徒向け学校教育自己診断における「命の大切さやルール、人権について学ぶ機会がある」[90.9%]を92.0%以上にする。 ・保護者向け学校教育自己診断における「学校は子どもに生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を養おうとしている」[94.1%]を94.0%以上維持する。 (2) ア ・生徒向け学校教育自己診断における「PTAや地域、近隣の学校(支援学校や小学校)との交流は活発である」[91.6%]93.5%以上にする。 ・保護者向け学校教育自己診断における「地域や近隣の学校(支援学校や小学校)との交流をしている」[92.3%]を94.0%以上にする。 イ 海外研修参加者によるアンケートにおいて肯定的評価100%を維持する。[100%] (3)	

府立藤井寺高等学校

	ア 学校ホームページ、藤高メルマガのさらなる充実 イ 生徒が主体の「体験入学」、「学校説明会」のさらなる充実	ア ホームページの充実を図り、「求められる情報」を発信するための更新を継続するとともに、学校ホームページやメルサービスの利用方法、メリットについても発信力を強め、より効果的な活用を模索する。また、広く地域へも教育に関わる情報について提供していく。 PTA 活動においても引き続き改革をすすめ、多くの会員が参加し、満足できる活動形態を構築するため実行委員会を中心に検討していく。 イ 「体験入学」、「学校説明会」において、在校生が主体的に活躍することによって「藤高（ふじたか）」の良さをわかりやすく伝える。	ア イ ・保護者向け学校教育自己診断における「学校は教育情報について提供の努力をしている」[86.8%]を、89.0%以上にする。 ・保護者向け学校教育自己診断における「学校のホームページやメルサービスを利用したことがある」[88.1%]を89.0%以上にする。 ・教員向け学校教育自己診断における「教育活動について必要な情報について、生徒・保護者や地域への周知に努めている」[94.9%]を維持する。	
4 生徒が安全・安心な環境の中で学校生活を送るとともに、生徒、教職員の健康管理を推進する体制を充実させる	(1) 生徒の規範意識の向上と保護者、関係機関との連携による教育相談体制の充実 ア 生徒一人ひとりに対する支援の充実 イ 自転車マナーの向上と交通安全指導の徹底 (2) 「入学してよかったと言える学校」の継続 ア 「藤高」の将来に向けた特色ある取組みの検討 イ 個人情報保護するための取り組みを検討 (3) 大規模災害の発生に対応できる防災体制の強化および防災教育の充実 ア 大規模災害の発生に対応できる防災体制の強化 (4) 大阪府立学校の 教育 職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づき働き方改革を推進する ア 「全校一斉定時退庁日」、「ノークラブデー」「学校休業日」の完全実施を図るための部活動の効率化 イ 働き方改革の推進	(1) ア 本校の教育目標である「互いに違いを認め合い、ともに学びともに生きる」ことを育むために、「教育相談」体制の充実を図るとともに、各学年と部活動の連携や保護者との連携、情報提供に努め、生徒支援体制を強化する。また生徒指導方針、内容に対する理解促進を図るとともに、価値観や生活スタイルの変化にも対応していけるよう検討を続けていく。 イ 生徒の94.5%が自転車通学をしているため、地域や警察と連携した交通安全指導を図るとともに、交通ルールの順守をねばり強く指導していく。 (2) ア 「入学してよかったと言える学校」であり続けるために、「藤高 MTG」「運営委員会」「総合探究推進委員会」を中心に学習、学校行事、部活動など学校生活全般についての検討を継続する。 イ デジタル機器の導入や情報のデジタル化にともなう個人情報漏洩の危険性に対して、情報保護のための具体的な対策を立案するとともにその実施を徹底する。 (3) ア 大規模災害に備え、藤井寺市危機管理室と連携するとともに、必要物資のさらなる調達を進めていく。 (4) 学校保健委員会、安全衛生委員会の活性化によって生徒の健康を守るとともに、「部活動方針」の遵守等により時間外勤を削減し、教職員の働き方改革を進める。 ア 「全校一斉定時退庁日」、「ノークラブデー」の完全実施に向けた部活動の効率化と「学校休業日」の周知徹底を図る。 イ ICT を活用した業務の効率化、行事や会議の精選を検討し、学校運営の見直しをすすめる。	(1) ア ・生徒向け学校教育自己診断における「担任の先生以外にも相談することができる先生がいる」[73.4%]を75.0%以上にする。 ・保護者向け学校教育自己診断における「子どもが悩みを相談できる体制ができている」[77.8%]を80.0%以上にする。 イ 生徒向け学校教育自己診断における「学校生活についての先生の指導は納得できる」[77.0%]を78%以上にする (2) ア 生徒向け学校教育自己診断における「学校に行くのは楽しい」[87.2%]を89.0%以上にする。 ・生徒向け学校教育自己診断における「学校は特色ある取組みを行っている」[85.2%]を87.0%以上にする。 イ 生徒向け学校教育自己診断における「学校において個人情報は守られている」[94.6%]を95.0%以上にする。 (3) ア 本校、藤井寺市、地域3者合同会議を年1回開催する。[0回] (4) 一人当たりの平均時間外在校時間を前年度より6%減少させる。[5.8%]。 ア 「全校一斉定時退庁日」における教職員の順守率[74.4%]を75%以上にする イ 年間の時間外在校等時間が720時間を超える教育職員をゼロにする。[2人]	